

'21 ミス日本「海の日」吉田さくらさん

◆【さくらの休日 第5回】③

憧れから身近な存在に 大好きな海を後世へつなげたい

私にとって、ミス日本「海の日」としての一年間の任期は、海への愛情をより深め、持続可能な海洋に向けて、自ら考えて行動する姿勢を学んだ一年でした。任命された当初は、海なし県である群馬県に生まれ育った私にとって、海は身近な場所ではなく、憧れの場所でした。しかし、活動を通じて、海や海に密接な場所に行き、海で働く方々と接する機会に恵まれたことで、私にとって海が身近な場所となっていきました。そして、この大好きな海を後世へつなげるためには、どう自分が行動したらよいかを真剣に考えるようになりました。

具体的なアクションとして、海洋プラスチック問題解消のためのマイボトル持参や、持続可能な水産物を守るためのブルーシーフードガイドを活用したサステイナブルな水産物の選択など、私も未来を変えていくために地道に行動していこうと考えています。この取り組みは任期終了後も日常的に工夫して続けていきたいと思っています。

私自身、2021年はミス日本「海の日」の活動で海に行き、海を身近に感じることができましたが、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言、外出自粛の呼びかけなどで家族や友達と海に遊びに行くことは難しい一年でした。今年こそ、憧れの瀬戸内海に伺えると楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて断念したため、いつか訪ねられることを心待ちにしています。

私だけでなく、多くの方々にとって、2021年は海を身近に感じるのが難しい年だったかもしれません。だからこそ、この2021年に、ミス日本「海の日」として海に接し、海の魅力や海の大切さを学べたことはとても価値あることだと思います。この貴重な経験を活かし、これからも大好きな海の魅力をさらに発信していきます。

「海員だより」